

令和元年度学校評価のまとめ

重点 本年度 目標	1 望ましい生活習慣と学習習慣の確立 2 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 3 キャリア教育の一層の充実 4 生徒の帰属意識を高める活発な生徒会活動と部活動 5 総合学科としての特色づくりの推進と魅力の発進		
分掌 学年	重点 目標	具 体的 方 策	評 価 結 果 と 課 題
総 務	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の円滑な運営。 P T A活動の活性化と充実。 防災対策に対する意識の向上。 総務部の仕事の見直しと改善。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸行事において、過去の反省を活かし、早めの計画および円滑な運営を実践する。その際に極力生徒のボランティア参加を呼びかけ、生徒の自主性・責任感を養う。 P T A行事がより活発に行われるよう役員と連携をとり、運営をサポートする。 年2回における防災対策の行事内容を検討し、防災に対する意識の向上を図る。 仕事の効率化・公平化を心がけ、必要に応じて内容の改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各行事は早期の計画・立案で他分掌との連携も図り、円滑な運営ができた。 生徒ボランティアの参加を心掛け、生徒の自主性・責任感の育成をさらに高めたい。 P T A各行事は参加者も多く、円滑な運営へのサポートができた。 防災に対する意識の向上が図れた。次年度は防災訓練により重点を置きたい。 効率的な仕事ができた。可視化により更に効率的かつ正確な運営を目指したい。
教 務	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントの分析シート及びSWOT分析の結果を基にした令和4年度入学生の教育課程完成 1日平均2時間以上の家庭学習の習慣化により多くの進路希望者が一般入試で大学に合格できる学力の育成 総合学科発表会を広く外部にも公開するための総合推進部と連携した計画・立案 	<ul style="list-style-type: none"> 教科主任会をととして、新しい学習指導要領を各教科会で共通理解し、学校全体で社会に開かれた教育課程を検討する。 全授業において、『夢源NOTE』を効果的に活用し、基本的な生活習慣の確立、家庭学習時間を増加させる仕掛けを検討する。 今年度より保護者に総合学科発表会の案内文書を配付し、今後、外部施設での実施及び中学校教員・保護者にも公開機会を設け、更に外部に開かれた発表会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の教育課程は仮完成した。次年度は3観点別評価方法の研究を始めたい。 公開授業週間における授業実施者、参観者の数は増加しており、授業改善意識が高まってきた。 年度当初よりプロジェクトチームで総合学科発表会外部公開に向けた話し合いを重ねたい。
生 徒 指 導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立（遅刻指数の年間0点台の維持） 品位ある身だしなみ、及びマナー意識の確立（生徒、職員への啓発活動） いじめの防止、早期発見早期対応 夢源NOTEの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 各指導の中で個々の生徒との対話を図り、生活習慣の乱れやいじめの早期発見や、防止に努める。その中で夢源NOTEを活用した自己管理能力を養う。 節度ある身だしなみから品位のある身だしなみへ、様々な指導を通して生徒に規範意識を持たせるための啓発活動を行い、問題行動の減少に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席・遅刻・早退ともに昨年度と比較して大幅増である。休み明けの欠席遅刻が多く、基本的な生活習慣の確立を図るため、家庭との連携をより密にしたい。 ネット依存傾向がみられる生徒やSNSでのトラブルが複数件あった。ネットの適切な利用の仕方について模索していきたい。 夢源NOTEはより使いやすく改定した。
進 路 指 導	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科の特性を生かしたきめ細かい進路指導とキャリア教育の一層の充実をととして生徒の多様な夢を実現させるとともに、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成 学習習慣の定着と基礎学力、知識・技能の伸長を図り、一般入試等、学力により評価される入試へ挑戦し合格し得る生徒の育成 「高校生のための学びの基礎診断」、「大学入学共通テスト」・「英語4技能検定活用」、「総合型選抜」・「学校推薦型選抜」等、新しい入試制度への対応や、「総合的な探求の時間」におけるキャリア教育を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 各種体験活動への参加や、校内企業説明会や進路ガイダンス等の学びの中で生徒が未来の創り手として必要な資質・能力を習得すべく地域社会と連携し、より効率的に質の高いキャリア教育を推進する。 進学者対象に補習、土曜学習等を実施する。さらに、各試験等の成績を検証し、事後の指導につなげる。多様な進路志望先に対応した学力・実践力を養成する。 進路指導部内での業務の精選と効率化を図り、他分掌や各教科、学年団と協力・連携する。特に進路研究や、「活動報告書」のための活動履歴の蓄積、「e-ポートフォリオ」での出願に対応するため、『夢源NOTE』を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の就職希望者は全員12月までに内定した。3年生の進路希望の確定を早い時期に促したい。 新入試制度に向けた対策（新傾向問題への対応、活動記録の電子化）は進んでいる。今後も新入試制度の情報収集を早期に始め、対応していきたい。
保 健 厚 生	<ul style="list-style-type: none"> 清掃場所への速やかな移動と開始時間の厳守 ごみの分別と減量化 保健委員による定期的なトイレパトロールの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃場所において清掃監督者が確実に生徒を掌握する。 始業前の清掃ボランティア活動をより一層充実させる。 月1回の保健委員によるトイレパトロールを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> トイレパトロール活動も軌道に乗り、清掃へのモチベーションアップにつながった。 次年度は新しく「クリーンアップ・ホームルーム」を作り、教室美化の向上を図りたい。
生 徒 会	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会主催の学校行事や部活動に各生徒が積極的に参加することにより、主体性・自立性を養い、充実した学校生活を送ることができるようサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭をはじめとする諸行事において、生徒会執行部が自主的にさらには主体的に運営できるように適切なアドバイスを行う。 サポートスタッフの活躍の場を設けるとともに、フォトスタッフを新たに始動する。 部活動に関する環境整備を進めることでより活発な活動となるようにサポートする。 部活動活性化につながる啓発活動を行う。 顧問の先生に活動方針に沿った練習計画の立て方をしてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭の3年生模擬店、1,2年生クラス企画ともに例年以上にクオリティーの高い内容であった。（学校祭生徒アンケートにおいて満足96%） 部活動の定着率が90%以上を超え、6部活動が県大会出場、男子ソフトテニス部が東海大会出場を果たした。 顧問の先生の協力のもと、適切に部活動の休養日を設けることができた。

図書研修	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の利用者の増加 ・調べ学習の場に適した空間・環境づくり ・書籍や書庫の整理 ・5年経験者研修の円滑な運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書、読書感想文、BOOK WAGON、ビブリオバトル、チャレンジ20などを通して図書室利用の啓発活動を行う。 ・図書委員会を活性化させる。 ・リファレンス充実のひとつとして、外部図書館との連携を最大限に活用する。 ・効率的な書籍の整理のためにも、除籍業務を充実させる。 ・研修者と綿密に打ち合わせ、事前・事後の指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書貸出冊数は前年比の1,5倍に伸びた。ビブリオバトルは例年にも増して盛況であった。授業での利用も増えた。 ・2年計画のCCプロジェクトの結果、図書室が明るくなり、より生徒が利用しやすくなった。
総合推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「3年間を見通した身に付けるべき力と活動」を校内で共通理解した上で、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の内容を検討し、内容の深化とコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を目指した「聞く・考える・発信する力」の定着 ・生徒が中心に活動できるPR活動を推進 ・総合学科発表会を学校の特色ある行事として発展するために他分掌と連携した計画・提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」において、3学年は課題解決型学習を学年と協議し推し進める。2学年では、視野・世界を広げる取組を多く取り入れ、自分の意見をまとめる習慣を育成する。そのために夢源 NOTE を有効活用する。 ・学校のPRを生徒主体にし、頑張る姿や杏和高校の良さ・面白さをアピールする。クリアファイルデザインコンテストの応募を1学期にも行い応募数が増える工夫をする。ボランティア生徒の自主性やプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を養う。学校説明会は、年3回程度を予定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生「産業社会と人間」では綿密に計画されたプログラムで実践することができた。2年生全員に課題研究に取り組むための種まきを終えたので、3年次に課題研究を完成させたい。 ・複数回実施した学校説明会、10月実施の地区合同説明会は十分にPR効果があった。生徒たちの活躍は素晴らしかった。来年度は実施のための負担軽減策を講じたい。 ・来年度の総合学科発表会は準備を早期から始め、生徒主導の運営を目指したい。
情報推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校務の情報化軽減化推進のための校務支援システムの運用範囲の拡張 ・hirobaTの活用 ・ホームページの運用・管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムのグループウェア機能及び生徒管理機能を活用する。 ・hirobaTの活用を周知徹底する。 ・各種の情報をタイムリーにホームページに掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループウェア機能の使用頻度は高く、生徒管理機能の運用状況も良好である。 ・hirobaTの活用状況は良い。 ・ホームページの更新、閲覧状況ともに良好である。
1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣及び安定した学校生活のリズムの確立 ・学習意欲の向上と学習習慣の確立 ・卒業後の進路を見据えた科目選択 ・部活動や学校行事等への積極的な取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や言葉遣い、身だしなみ、時間遵守などのマナー指導を適切に行うとともに、個々の生徒の状況把握を心がけ、適切かつ明確なアドバイスをする。 ・授業の重要性を呼びかけ、必要に応じて適量の課題を与え、家庭学習の重要性を促し適切な提出指導を行う。 ・「産業社会と人間」において社会や将来を考えさせ、次年度に向けた科目選択のための指導を充実させる。 ・学校行事や部活動の取組状況や参加状況を把握し、必要に応じてアドバイスをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒は基本的な生活習慣を確立させ、高校生活に適応したが、秋以降、人間関係等で悩む生徒が出てきた。適切な状況把握とアドバイスを心掛けた。 ・指示された課題等には取り組むことができるが、自発的に学習できない生徒が多い。学習を促す配慮と工夫が必要である。 ・「産業社会と人間」においてグループワークやプレゼンテーションに挑戦させ、コミュニケーション能力や自己表現の第一歩を踏み出した。3年生につなげたい。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立および社会性の育成。 ・学習習慣の確立と学力の向上。 ・進路目標の確立と具体化および進路に関する研究。 ・部活動や学校行事への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や身だしなみなどのマナーの重要性やルール必要性に自ら気づき実行できるとともに、集団内でお互いを認め合いよい関係を築けるようにアドバイスをする。 ・授業だけでなく家庭学習の重要性を呼びかけ学習習慣の定着を図る。 ・進路の情報収集や上級学校における体験講座などへの参加を促し、進路実現に向けた具体的な行動をとることを指導する。 ・部活動や学校行事に教員が積極的に関わることで生徒を把握し、意欲的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒は校則やマナーを理解し、実行しているが、意識の低い生徒も若干いた。 ・学習習慣の必要性を何度も各場面で伝えてきたが、学習時間が増えない。進路実現に向けて粘り強く指導していきたい。 ・積極的に部活動に参加する生徒が多く、昨年度より多くの部活動が県大会に出場するなどの成果をあげた。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けた自主的、主体的に判断し行動できる生徒の育成 ・ひとりひとりが未来の社会を担う一員となるという自覚の醸成 ・杏和生としての自覚と誇りを育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が細心まで指示をすることなく、自ら判断し行動する機会を増やすとともに、各生徒の希望や関心・意欲に応じて幅広く受験機会を与えるサポート体制を整える。 ・社会人として必要な常識の会得・生活習慣の確立を求める。 ・最上学年として学校行事への積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験が近づくにつれ不安定になる生徒が複数おり、欠席遅刻早退数の増加に現れた。 ・進路実現については学年団以外の教員にも協力をお願いし、成果につなげることができた。 ・入試制度改革前の最後の大学入試、定数厳格化等の影響で厳しい入試となった。
総合評価			

総合学科ならではの学びの中で生徒はたくましく成長している。その成果が3年生の進路結果や学校行事などの形で表われていた。大学入試制度改革や少子化の中で総合学科の特色をより一層前面に出し、現状に留まることなく、さらなる飛躍を期待したい。